



南会津高校進路だより

羅針盤 (6月号)

第85号

2018年6月12日

進路指導部・発行

大学進学を本当にしたいのか？まだ本気モードの受験生が少ない！ —どうせ大学進学をするならば、苦しい受験勉強を体験してから進学すべき—



3年生の平常課外がスタートした。だが、基礎的事項を振り返る課外にもかかわらず、復習・受験勉強が足りないため、基礎中の基礎さえ答えられない現実にがっかりさせられた。中には課外に仕方なく来ている、課外をやらされている、感満載の受講者もいて、当事者意識がまったく伝わってこない。これで本当に大学進学をめざしているのだろうか？まるで推薦かAOで進学できればいいと考えているかのような雰囲気だ。もちろん、真面目に努力しようとしている3年生も多いが、それでも本当の受験勉強には程遠く取り組みは不十分。また、大

学受験組の休み時間や放課後の様子を見ても、いたってのんびりムード。3年のこの時期ともなれば、寸暇を惜しんで勉強するのが当たり前。他校の受験校では今頃必死になって学校でも家でも通学の電車の中でも頑張っている生徒がほとんどである。モチベーションがこれだけ違ったら、先の勝負（勝敗）は自ずと見えてくる。まだまだ当事者意識が足りない。どこか人ごと、そして受験や社会の現実・厳しさ・実態を知っていない。いや、知っているも現実味をもてずやる気・その気になれないのかもしれない。残された日々は少ない。時間を無駄にしている暇はない。早く目覚めて、人生最後になるかも知れない「受験勉強に没頭」する、「勉強漬けの毎日」を送ることを実践してほしいのだが・・・。そして、大学進学希望者のみならず、3年生全員がもっと危機感と緊張感をもって、お互いに厳しく勉強に取り組むクラスの雰囲気がほしい。早く3年生の教室全体に受験ムードが漂うことを期待したい。



進路ニュース



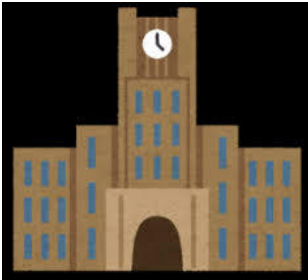
2020年度から、非課税世帯の私大授業料70万円減額！国立大は全額！の予定

安倍内閣の人づくり革命の目玉施策の一つである高等教育の無償化で、私立大に通う住民税非課税世帯の学生の授業料について、最大で年70万円程度を減額し、入学金も25万円程度を上限に免除、国立大は授業料約54万円、入学金約28万円を全額免除する方向で政府が検討中。これとは別に、教科書代などの修学費や通学費、下宿生の食費、光熱費などの生活費を対象に返済不要の給付型奨学金も支給。年収270万円未満が目安の住民税非課税世帯をベースに、年収300万円未満の世帯もこれの三分の二、380万円未満は三分の一の額を支給。なお、公立大は国立大に、短大や専門学校は大学に準じた額となる模様。実施は2020年度からの予定で、現在の1年生からが対象となる見込みだが、反対意見・課題もあり実施は不透明の部分も多い。

<福島民友新聞記事、朝日新聞記事参照>

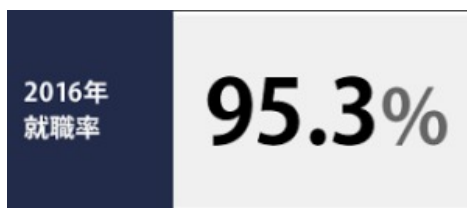
オープンキャンパス・学校案内資料～大事な見極め方・心得

「偏差値や知名度による大学選びは終わった」「どこに入るかではなく、何を学ぶかが大事だ」に、だまされるな!



相変わらず、新聞・テレビ・進路情報誌・雑誌等には、上記のような記事やコメントが目立つ。もちろん、こうした意見はあっていいし、完全否定するものではない。ただ気になるのは、まるで努力をして偏差値の高い有名大学を目指すことを否定？悪？とし、「無理して受験勉強しないで自分のやりたいことができる大学に入りましょう」「今の時代偏差値は関係ないですよ」「知識詰め込みの受験勉強はナンセンス」とでも言っているような記事さえある。本当にこうした記事を信じていいのだろうか？記事の中には、現状・実態からかけ離れた理想論とを感じるものが多い。君たちはこうしたコメントを鵜呑みにしていけない。これはある一定の立場(その都合)から、総論を述べているだけで、決してどの立場にも当てはまるものではなく、現実的な各論ではない。こうした耳障りのいいコメントは、よく出回るがそれをそのまま安易に信じ込んではいけないのである。よって、君たちは、偏差値や知名度を否定も肯定もせず、自分の目指す大学を明確にし、合格に向けて努力すべきだろう。ただし、「偏差値・知名度は、その大学の評価・実績と少なからず比例しているため、精一杯の努力でより上を目指して合格した方が、将来後悔のない満足度の高い人生になりやすい」ということだけは付け加えておきたい。

「面倒見のいい学校、就職率のいい学校、特典いっぱい学校」に、だまされるな!



学校案内や進路情報誌で「本校は面倒見がいい」「就職率は90%」「充実した奨学金制度」「豪華な最新の施設・設備」などと盛んに魅力をアピールする学校がある。だが、大学を例に取れば、実は上位校ほど学生の面倒見が悪く、逆に下位校ほど面倒見が良く学生をお客様扱いする、という傾向がある。それはなぜか？上位校ほど放っておいてもいざとなったら自分で目標に向かって努力できる学生が数多く集まっているからである。また、上位校・有名校は、社会的評価が高いため、結果として就職実績も良くなるという点も放任主義の要因である。上位校・伝統校以外で時折見られる「お客様扱い・過保護」の傾向は、自分を高める意欲的な学生が減り、甘い体質の学習環境になりやすい。もし、そうした大学に進学すれば「南会津高校の授業の方がよっぽど真面目で意欲的だった」とがっかりするかもしれない。また、就職率の数字をそのまま鵜呑みにしてはいけない。分子と分母の数値は学校によってバラバラで、まったく当てにならないからである。そんな数字を当てにするより、できるだけ難関と呼ばれる実績ある伝統校をめざして本気で受験勉強した方が得策だ。さらに、特典(授業料無償、授業料減額等)をたくさんつくり学生集めに奔走する学校も考えものだ。特典(奨学金等)は活用すべきだが、そもそも特典ありきの学校選びは間違っている。学校の本質・実態をきちんと見極めることが何より大切である。